



夜間オンライン診療拡大

小児本島全域で検証実験



小児夜間オンライン診療を拡大したと説明する（右から）県医師会の仲村尚司理事、田名毅会長、ヘルスケアテクノロジーズの鴻池大介社長。18日、県庁。

中学生以下の軽症患者を対象に2月から実施している小児夜間オンライン診療の検証実験で、県医師会が対象地域を本島中部から本島全域に拡大した。実施期間も2027年3月31日まで延長する。田名毅会長は「夜間に不安を抱える保護者に適切な医療を提供するとともに、逼迫する小児救急の負担軽減につなげたい」と語った。

本島中部で2月9日から検証実験を3カ月間実施したところ、相談が100件以上あり、満足度は5段階評価で4・4と高かった。疾患の割合は、風邪が63%、皮膚炎が14%、胃腸炎などの消化器症状が13%。救急診療が必要と判断されたケースは全体の9・9%で、軽症患者の最初の受け皿として機能している。オンライン診療時間は、平日・土日祝日も午後6

平日・土日祝日も午後6時～10時。発熱や吐き気、皮膚症状などに対応する。けいれんや意識障害、呼吸困難などは救急病院の受診を呼びかける。県内在住の医師18人が輪番で診察を担当し、緊急性が高い場合は、県立北部病院や県立中部病院など6病院が対面診療を引き継ぐ。仲村尚司理事は「地域の病院との連携でスムーズに対面診療へ移行できる」とアピールした。将来的には離島にオンライン診療を拡大することも目指す。

システム開発に、ヘルスケアテクノロジーズ（東京）が協力している。（平良朱音）

【沖縄タイムス】2026年6月19日 夜間オンライン診療拡大小児本島全域で検証実験
沖縄タイムス社 提供

夜間オンライン診療拡大

県医師会実証 本島全域、中学生以下



記者会見をする（左から）ヘルスケアテクノロジーズの鴻池大介社長、県医師会の田名毅会長、仲村尚司理事。18日、県庁。

県医師会（田名毅会長）は18日、県庁記者クラブで会見を開き、中学生以下の対象とした夜間オンライン診療サービスの実証事業を本島全域で開始したと発表した。県内では、夜間を中心に小児の軽症患者による受診が基幹病院に集中し、救急医療のひっ迫が慢性的に続いている状況にあり、救急医療機関の負担軽減などを目的としている。期間は2027年3月末まで。

診療時間は午後6～10時。LINEを通じて申し込み、ビデオ通話で診察を受ける。県内在住の医師18人が輪番制で月1、2回担当する。薬の処方なども可能。田名会長は「病院で長い時間待たなくても、自宅から診療にアプローチできる」と患者や家族の負担の軽減にもつながると強調する。

オンライン診療実証事業は、今年2月9日から本島中部の医療圏に住む中学生以下の軽症患者を対象に実施。県医師会によると、5月9日までの間に約130人が利用し、診療後のアンケートでは、5点満点中4・4点の満足度を得た。症状を聞いていく中で、病院での対面診療につないだ割合は9・9%だった。

オンライン診療の対象となる症状は、発熱、せき、鼻水、吐き気、皮膚症状など。けいれんや意識障害、呼吸困難などの症状があった場合はすぐに救急病院を受診するよう呼びかけている。会見には田名会長のほか、県医師会理事で中頭病院の仲村尚司医師、オンライン診療サービスを提供しているヘルスケアテクノロジーズ社の鴻池大介社長らが参加。田名会長は「対面診療が基本」としながらも、「夜間に比較的軽症であるものの、不安が強い場合、選択肢の一つとして活用いただきたい」と呼びかけた。

（長瀬晃太郎）



【琉球新報】2026年6月19日 夜間オンライン診療拡大小児本島全域で検証実験
琉球新報社 提供